

# 「広島・長崎講座」について

—基本コンセプトと講座内容—

## 1 「広島・長崎講座」とは

原爆投下から 77 年が経過し、被爆者の高齢化が進む中、被爆体験の風化や若い世代を中心とした平和意識の低下・希薄化が懸念されています。広島市・長崎市・(公財)広島平和文化センターでは、大学(大学院を含む)の講座で、広島・長崎における被爆の実相や戦争の悲惨さ、核兵器の非人道性、平和の尊さなどを人文科学、社会科学、自然科学などの学術的分野で取り上げたものを「広島・長崎講座」として認定し、その普及を図っています。

現在までに、国内 52 大学、海外 24 大学の講座を「広島・長崎講座」として認定しました。各大学のシラバスや現地学習の様子は、「広島・長崎講座」ホームページでご覧いただけます。

[http://www.mayorsforpeace.org/jp/hnpc/hnpc\\_top.htm](http://www.mayorsforpeace.org/jp/hnpc/hnpc_top.htm)

「広島・長崎講座」の普及・認定に関する事務は、両市の委託を受け(公財)広島平和文化センターが行っています。

## 2 「広島・長崎講座」の要件

### (1) 形式について

「広島・長崎講座」の認定を受けることのできる講座は、学期を通じて実施する「講義形式」のものか広島・長崎で現地学習をする「現地学習形式」のものである必要があります。「講義形式」と「現地学習形式」を組み合わせることもできます。また、講座の新設・既設は問いません。

### (2) 認定条件について

講座の認定に当たっては、それぞれの形式において以下の全ての条件を満たすことが必要です。

#### <講義形式>

ア 広島・長崎の被爆の実相を伝え、被爆体験を基にした被爆者の「他の誰にもこんな思いをさせてはならない。」というメッセージを理解させるとともに、核兵器廃絶や世界平和の実現について考える内容となっていること。

イ 広島・長崎の被爆体験を人文科学、社会科学又は自然科学等の分野において学問的に考察・検証していること。

ウ 少なくとも学期を通じて、毎年実施されるものであること。

#### <現地学習形式>

ア 上記「講義形式」のア及びイの内容を被爆地で学習することを目的として広島又は長崎を訪問し、被爆体験講話の聴講又は平和関連施設若しくは各種研究機関の見学などを行うこと。

(現地学習の例)

- 被爆者による体験講話の聴講
- 広島平和記念資料館など平和関連施設見学
- 放射線影響研究所など各種研究機関の見学
- 被爆の社会的影響についての学習
- 被爆の医学的影響についての学習
- 平和問題等に関する討論

イ 定期的に実施されるものであること。

### 3 「広島・長崎講座」認定の流れ

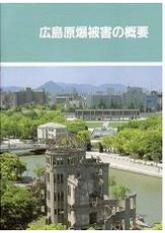
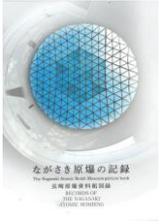
- (1) 所定の申請書に講座のシラバスや授業計画等を添付して、(公財)広島平和文化センターに提出してください。
- (2) 提出された申請書及び資料に基づき、(公財)広島平和文化センターが認定条件を満たすと認めるときは、その講座を「広島・長崎講座」として認定し、大学に認定通知を送付します。
- (3) 認定後、「4 「広島・長崎講座」実施に対する支援」に記載した支援を行います。

### 4 「広島・長崎講座」実施に対する支援

大学が「広島・長崎講座」に認定された講座を実施する場合に以下の支援を行います。

#### (1) 教材の提供 (講座認定時)

種別・言語	タイトル	内容等
DVD (広島：日本語音声/英語字幕 長崎：英語音声/英語字幕)	ヒロシマ・ナガサキの被爆体験証言 A-bomb Survivor Testimonies from Hiroshima and Nagasaki	広島市、長崎市の被爆者4人の被爆体験証言を収録しています。 広島：高橋昭博さん(2006年3月収録) 長崎：山口仙二さん、下平作江さん、久松シソノさん(長崎放送制作「被爆を語る」ダイジェスト版No.4の英語版1992年3月制作) (上映時間：98分) 【企画・製作】(公財)広島平和文化センター
CD (日本語/英語)	広島市の被爆体験証言 (高橋さんの証言) A-bomb Survivor Testimony from Hiroshima (Mr. Takahashi's Testimony)	高橋昭博さんの日本語・英語の証言原稿と証言の際に使用するパワーポイントのデータです。上記のDVDを補足しています。
DVD (日本語/英語)	ナガサキの少年少女たち The Children of Nagasaki 	若い世代に原爆被爆の実相や原爆による人間の破壊などを訴える為、被爆直後の実写フィルムや被爆者の証言をもとに制作したものです。原爆被爆に至る経過、原爆開発、被爆の惨状、復興、平和推進運動を主な柱として構成しています。(上映時間：31分) 【企画】長崎市 【製作】(株)日本映画新社

種別・言語	タイトル		内容等
DVD (日本語/英語)	ヒロシマ・母たちの祈り HIROSHIMA: A Mother's Prayer		子を失った母親の立場から、ヒロシマの惨状を描いています。(上映時間：30分) 【企画】広島市、 (公財)広島平和文化センター 【製作】(株)日本映画新社
書籍 (日本語/英語)	広島平和記念資料館 総合図録 Hiroshima Peace Memorial Museum Collection Catalogue		広島平和記念資料館の展示物の写真を中心に解説しています。 【発行】(公財)広島平和文化センター
書籍 (日本語/英語)	ヒロシマ読本 Hiroshima Peace Reader		広島の歴史や原爆、平和記念公園について知るための資料です。第1章では広島市の歴史を描き、第2章では原爆投下とその惨状を重点的に扱い、第3章で平和記念公園の由来や公園内周辺に建てられた慰霊碑などの説明を行っています。 【発行】(公財)広島平和文化センター
書籍 (日本語/英語)	広島原爆被害の概要 The Outline of Atomic Bomb Damage in Hiroshima		広島に投下された原子爆弾による被害のあらましをまとめています。 【発行】(公財)広島平和文化センター
書籍 (日英併記)	図録 原爆の絵 「ヒロシマを伝える」 A-bomb Drawings by Survivors		1,246点の絵をカラーで収録。本編161点は「きのこ雲の下で」、「きずな」、「いのち」の3章で構成。絵と作者自身のことばで綴られています。 【編集】広島平和記念資料館 【発行】岩波書店
書籍 (日英併記)	ながさき原爆の記録 Records of the Nagasaki Atomic Bombing		長崎原爆資料館の展示を中心に、被爆の実相をより正確に知っていただくため、原爆の惨状、被害、核軍縮の動きなどを写真と文章でまとめています。 【発行】(公財)長崎平和推進協会

種別・言語	タイトル	内容等
書籍 (日英併記)	原爆被爆記録写真集 Photo Collection: Atomic Bomb Damage in Nagasaki 	1945年8月9日、一発の原子爆弾によって壊滅的な打撃を受けた長崎の街。当時撮影された写真と共に原爆の被害状況などを記載しています。 <b>【発行】</b> (公財)長崎平和推進協会
CD (日本語/英語)	「被爆体験記朗読会」開催マニュアル “A-bomb Memoir Reading Sessions” Event Manual	国立広島原爆死没者追悼平和祈念館が行っている被爆体験継承事業の実施マニュアルです。被爆体験記や原爆詩を読み語ることによって、幅広い人々と被爆者の記憶や思いを共有することができます。若い世代に被爆体験や被爆の実相をより深く理解し、考えてもらうための一助としてご利用ください。
CD (日本語/英語)	広島・長崎平和宣言 (1999年～現在) Hiroshima and Nagasaki Peace Declarations (1999-present)	広島市、長崎市が毎年発表している平和宣言です。99年以降の日本語、英語のデータを収録しています。
書籍 (日本語/英語)	広島の復興の歩み Hiroshima's Path to Reconstruction 	<b>【発行】</b> 国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業実行委員会 (広島県・広島市)

(2) 被爆体験証言者、学術研究者等講師の紹介・派遣  
認定講座の講師として、被爆体験証言者及び学術研究者等を紹介します。  
なお、予算の範囲内で、派遣旅費（日本で実施される講座のみ）や講師の謝礼金の経費を事務局が負担します。

(3) オンラインによる被爆体験講話・伝承講話の実施

(国内大学)

被爆体験伝承者による講話をオンラインで聴くことができます。

(海外大学)

被爆者による体験講話をオンラインで聴くことができます。

(4) 広島・長崎現地学習における支援

広島・長崎での現地学習を行う際、希望に応じ以下の支援を行っています。

(広島市)

- ・ 被爆体験証言者の紹介（英語対応可）
- ・ 学術研究者等講師の紹介
- ・ 広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、平和記念公園の見学調整（平和記念公園見学の際のボランティアガイドの手配も可能、英語対応可）
- ・ 広島平和記念資料館観覧料の免除
- ・ 平和に関する研究者や若者とのディスカッションに係る調整

(長崎市)

- ・ 被爆体験証言者の紹介（日本語対応のみ）
- ・ 長崎原爆資料館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、平和公園、爆心地など被爆遺構の見学調整（見学の際のボランティアガイドの手配も可能、英語対応可）
- ・ 長崎原爆資料館観覧料の免除
- ・ 平和に関する研究者や若者とのディスカッションに係る調整

(2)～(4)は、講師の都合等により希望に沿えない場合がありますのでご了承ください。

## 「広島・長崎講座」の学問分野と講座内容（具体例）

## 1 平和学・平和研究の視点から

核問題についての学際的な研究の実績とその課題や問題点、今後の方向性などについて総括的に考察する。

- 世界の平和研究の現状
- 平和政策と国連、国家、都市、市民の役割

## 2 政治学の視点から

広島・長崎の被爆体験がその後の世界の核政策にどのような影響を与えたかを検証する。

- 核軍拡と核軍縮、国際政治における核の意味
- 日米安全保障条約と核の傘

## 3 国際法の視点から

国際司法裁判所が出した勧告的意見と核兵器禁止条約の持つ意味と今後の広がりなどについて研究する。

- 国際司法裁判所の勧告的意見の持つ意味
- 核兵器禁止条約の分析と今後の展開
- 国際法の有効性とその限界

## 4 哲学の視点から

被爆者の生き方を中心に、人間の尊厳、生と死、憎しみと和解などのテーマについて考察する。

- 被爆者の生の意味
- 平和宣言の中のヒロシマ

## 5 社会学の視点から

戦後の被爆者の活動を起点として、核を巡るさまざまな社会運動の功績と課題を考察する。また、反核・平和運動に果たす NGO の役割等について考察する。

- 核兵器廃絶運動と被爆者が果たしてきた役割
- 核と環境問題

## 6 歴史学の視点から

原爆開発に至る歴史や原爆が開発されてから使用されるまでの歴史、原爆投下に対する歴史認識の違いなどについて考察する。

- 原爆投下への道程と原爆投下の是非を巡る歴史認識に関する研究

## 7 心理学の視点から

原爆投下が被爆者や世界の人々にもたらした心理的影響、軍事技術と心理学についての研究、さらには暴力文化から平和文化へ向けての心理学的アプローチなどについて研究する。

- 原爆投下の心理的影響
- 相互確証破壊理論に基づく核抑止論の克服

## 8 教育学の視点から

我が国及び世界における平和教育の現状と課題、及びその中でヒロシマ・ナガサキがどのように扱われてきたか考察する。

- 各教育レベル（初等、中等、高等）における平和教育の現状
- 平和教育におけるヒロシマ・ナガサキの扱われ方

## 9 文学・芸術の視点から

小説、手記、映画、絵画などの芸術作品を題材として、原爆文学をはじめ原爆をテーマとした芸術文化の体系的研究を行う。

- 文学や芸術の中のヒロシマ・ナガサキ

## 10 物理学及び都市・建築工学の視点から

原爆の威力とそれが実際にどの程度の被害をもたらしたかを解析するとともに、様々な場面で核が使用された場合のシミュレーションを行う。

- 原爆被害の定量的分析・研究
- 核被害のシミュレーション

## 11 医学の視点から

原爆が人体にもたらした医学的影響及び放射線被曝者医療の現状と課題等について考察する。

- 原爆の医学的影響
- 放射線被曝者医療の現状と課題

## 12 科学技術と自然、科学技術と社会の視点から

核兵器が絶対悪だと考える立場から、自然と科学技術との関係、人間と科学技術の関係を見直す。科学技術を真に人間的な目的のために使うためのガイドラインの設定、科学技術政策や産業政策のあり方を問う。

- 大量殺戮兵器を巡る現状と課題
- 自然と調和する科学技術のあり方とは

「広島・長崎講座」認定申請書

令和 年 月 日

広島市長 様

大学名：

役職：

氏名：

以下のとおり実施する講座を「広島・長崎講座」として認定していただきますよう申請します。

講座名	
担当教官	
開設期間	
対象学年	
単位	
成績評価方法	
講座趣旨	
講座内容	

[問合せ・連絡先]

〒730-0811 広島市中区中島町1番5号  
公益財団法人 広島平和文化センター国際部  
平和市民連帯課

TEL: 082-242-8872

FAX: 082-242-7452

E-mail: [rentai@pcf.city.hiroshima.jp](mailto:rentai@pcf.city.hiroshima.jp)